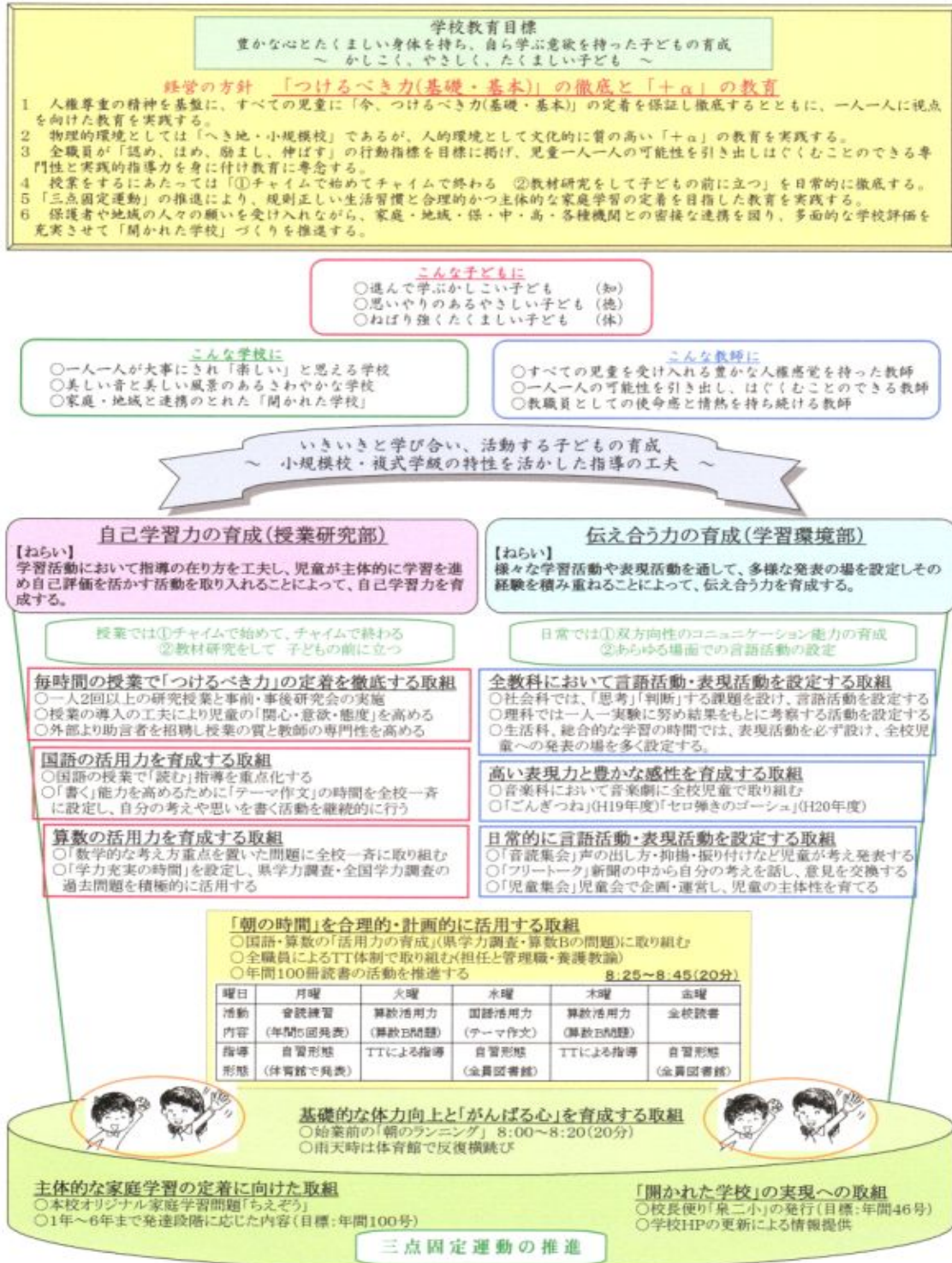


管内名	八代	学校名	八代市立泉第二小学校
-----	----	-----	------------

◆学力向上に向けた学校全体としての取組

平成20年度 確かな学力の定着に向けた全体構想図

八代市立泉第二小学校



## 1 取組の実際

### (1) 確かな学力の定着に向けた取組

#### ア 毎時間の授業で「つけるべき力(基礎・基本)」の定着を徹底する取組

- ・ 校内研修を充実させるなかで、一人2回以上の研究授業と事前・事後の授業研究会を実施する。
- ・ 特に算数科においては、導入の工夫を研究することによって、児童の「関心・意欲・態度」を高める。
- ・ 外部より助言者を招聘し、授業の質と教師の専門性を高める。

#### イ 国語の活用力を育成する取組

- ・ 国語科の授業で、「読む」指導を重点化する。
- ・ 「書く」能力を高めるために「テーマ作文」の時間を全校一斉に設定し、自分の考えや思いを書く活動を継続的に行う（作文用紙はマス目の大きさの違う6種類を用意し、児童が自分で選んで書く。担任はコメントを記述した後、階段の踊り場に全校児童の作文を掲示する）。

「朝の時間」のテーマ作文のテーマ計画

(全校一斉)

回	月・日・曜	関連した出来事など	「テーマ作文」のテーマ
1	4・23・水		さくら
2	4・30・水	端午の節句	こいのぼり
3	5・7・水	ゴールデンウィーク	ゴールデンウィーク中の出来事
4	5・14・水		泉町の緑
5	5・21・水	中国の地震	地震被害
6	5・28・水	環境月間	自分が環境を守るためにできること
7	6・4・水	梅雨	雨の楽しみ方
8	6・11・水	へき地学校招待事業	エジプト展・熊本城で見た～の～さ
9	6・18・水	プール開き	プール開き
10	6・25・水	熊本教育の日作文募集	学校の楽しさ
11	7・9・水	熊本教育の日作文募集	こんな学校にするために、自分がしていること
12	7・16・水	熊本教育の日作文募集	今一番頑張っていること
13	9・3・水	9／1始業式	2学期（76日間）継続してすること
14	9・10・水	9／15敬老の日	人生の先輩から学ぶこと
15	9・24・水	9／28運動会	運動会練習を通じて学んだこと考えたこと
16	10・1・水		来校者への道順案内（学校正門→音楽室）
17	10・8・水		比較作文（ひまわりと朝がおのの違いや共通点）
18	10・15・水		秋の訪れを感じるものは？感じるときは？
19	10・22・水		ジャンケンのルールをやったことのない人に説明
20	10・29・水	10月親子読書週間	ブックレター
21	11・12・水	11／16学習発表会	招待文（見どころなどを入れて）

22	11・19・水	11/23 勤労感謝の日	お家の方への感謝の念を自分の生活と関連させて
23	11・26・水	11/25 芸術観賞	芸術を鑑賞しての感想
24	12・3・水	人権月間	自分が見つけた身近な差別
25	12・10・水	生活月目標（掃除）	掃除をするとしないとで、変わるものは
26	12・17・水	12/18 持久走大会	持久走大会を前に、今思うこと
27	1・14・水	1/12 成人の日	成人とは、どういう大人になりたいか
28	1・21・水	生活月目標（礼儀）	挨拶や礼儀正しい言葉遣いがもつ力とは
29	1・28・水	給食週間	自分の食、日本の食を振り返って
30	2・4・水		創作「ある朝、目が覚めると外には雪が降って
31	2・18・水	2/11 建国記念の日	最近の国内のニュースを見て思うこと
32	2・25・水		大切にしているもの、大切にしていること
33	3・4・水		なりきり作文（わたしは、～です。）
34	3・11・水		春の訪れを感じるものは？感じるときは？
35	3・18・水		この1年間の心の成長は何か

### ウ 算数の活用力を育成する取組

- ・「数学的な考え方」に重点を置いた問題に全校一斉に取り組む。
- ・「学力充実の時間」を設定し（低学年は木曜5校時、中・高学年は金曜6校時）、「全国学力調査の算数B」「熊本県学力調査」「ゆうチャレンジ」の過去問題を積極的に活用する。
- ・全学級とも2人体制（担任と校長・教頭・養護教諭）で指導することで、児童一人一人にきめ細かな支援を行う。

「朝の時間」の算数活用力の計画

（2年生の例）

回	月・日・曜	つけたい活用力	内 容
1	4・24・木	算数Bの「適用力」	短針の位置でおおよその時刻を読む
2	5・1・木	算数Bの「分析力」	6要素中既知の数は3要素の文章問題
3	5・8・木	算数Bの「応用力」	3口の文章問題
4	5・15・木	算数Bの「分析力」	6要素中既知の数は3要素の文章問題
5	5・22・木	算数Bの「分析力」	全体数から既知の5つの数を引く文章問題
6	6・5・木	算数Bの「分析力」	6要素中既知の数は3要素の文章問題
7	6・12・木	算数Bの「適用力」	買い物場面でのおつり算出(4式)の文章問題
8	6・19・木	算数Bの「分析力」	既知5数の関係をよみ補数を求める文章問題
9	6・26・木	算数Bの「分析力」	既知3数の関係をよみ補数を求める文章問題
10	7・3・木	算数Bの「適用力」	様々な数直線上の数をよむ(一目盛の求め方)
11	7・10・木	算数Bの「適用力」	買い物場面でのおつり算出(4式)の文章問題
12	7・17・木	算数Bの「創造力」	点構成で提示された形と同じ形を作図する
13	9・4・木	算数Bの「適用・分析力」	得するあめの買い方…Aのp.50の①
14	9・11・木	算数Bの「適用・分析力」	得するあめの買い方…Aのp.50の②

15	9・18・木	算数Bの「応用力」	加法の結合法則を使った式の説明
16	10・2・木	算数Bの「適用力」	240を8でわける…Aのp. 80の②
17	10・9・木	算数Bの「創造力」	図形(面構成)の周りの長さ…Aのp. 74の①
18	10・16・木	算数Bの「適用力」	かけ算を適用する文章問題
19	10・23・木	算数Bの「分析力」	テープ図を用いて解く逆思考の文章問題
20	10・30・木	算数Bの「創造力」	図形(線構成)の周りの長さ…Aのp. 74の②
21	11・6・木	算数Bの「適用・分析力」	かけ算を適用する情報過多の文章問題
22	11・13・木	算数Bの「分析力」	テープ図を用いて解く逆思考の文章問題
23	11・20・木	算数Bの「創造力」	図形(線構成)の周りの長さ…Aのp. 75の③
24	11・27・木	算数Bの「応用力」	九九の範囲をこえたかけ算の解決…Aのp. 80
25	12・4・木	算数Bの「応用・分析力」	かけ算を適用する文章問題…Aのp. 62の類題
26	12・11・木	算数Bの「分析力」	書かれた式をよむ…Aのp. 54
27	12・18・木	算数Bの「応用・分析力」	かけ算を適用する文章問題…Aのp. 62の類題

### エ 「朝の時間」を合理的・計画的に活用する取組

- ・ 国語・算数の「活用力の育成」（県学力調査・算数B問題）に取り組む。
- ・ 全職員によるTT体制で取り組む（担任と校長・教頭・養護教諭）。
- ・ 発達段階に応じた読み物に数多くふれるように年間100冊読書の活動を推進する。

曜日	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
活動内容	音読練習 (年間5回発表)	算数活用力 (算数B問題)	国語活用力 (テーマ作文)	算数活用力 (算数B問題)	全校読書
指導形態	自習形態 (体育館で発表)	TTによる指導	自習形態 (全員図書館)	TTによる指導	自習形態 (全員図書館)

### オ 全教科において言語活動・表現活動を設定する取組

- ・ 社会科では、様々な資料などから主体的に「思考」し「判断」するような課題を設けるなかで、言語活動を多く設定する。
- ・ 理科では、少人数のよさを活かして、一人一実験の授業に努めるとともに、結果をもとに考察する言語活動及び表現活動を多く設定する。

例えば、5年生理科「もののとけ方」の学習では、食塩や砂糖が水にとける様子を上皿天秤で重さを量ったり、アルコールランプを使って水分を蒸発させたりしながら調べるが、本校では、児童一人一人に上皿天秤やアルコールランプなどの実験器具を用意し、一人一実験を行っている。それにより、ものがとける様子を細かく観察・記録し、その後のまとめも実験結果に基づいた確かなものを書くことができる。また、観察・記録も教師が十分目を通すことができ、まとめをする段階で適切な助言をすることができる。さらに結果を発表する段階では、自分の考えを自信をもって発表することができるし、一人一人の発表の時間を十分確保できる。このような

学習の繰り返しにより、事実に基づいた確かな思考力・表現力を養うことができている。

- ・生活科、総合的な学習の時間において、表現活動を必ず設けるとともに、学級内だけでなく全校児童への発表の場を多く設定する。

## (2) 文化的に質の高い「+α」の教育の取組

### ア 高い表現力と豊かな感性を育成する取組

- ・音楽科において音楽劇を全校児童で取り組み、音楽的な技能を高めるとともに高い表現力と豊かな感性を育成する。
- ・「ごんぎつね」（平成19年度）「ゼロ弾きのゴーシュ」（平成20年度）

### イ 日常的に言語活動・表現活動を設定する取組

- ・「音読集会」

年間5回「朝の時間」に体育館で学級（学年）単位で発表する。

自分たちの好きな詩や物語から作品を選び、毎週月曜日の「朝の時間」に児童だけで練習をする。声の出し方、声の抑揚、大きさ、また振り付けなどほとんどを自分たちの工夫と創意で創り上げる。

児童の発表の後には、感想交流を行い、感想を言われた学年はその感想に対して返事を返すようにし、双方向の伝え合いの場となるようにしている。

- ・「フリートーク」

「フリートーク」とは、担当児童が話題を選び、自分の考えを話す。聞く児童は内容を聞き取って、それについて自由に自分の考えを言う。担当児童は聞く児童からのコメントをもらって、感想を返す。その一連の活動のこと。話題は、高学年が新聞記事の内容から、中学年が身近な生活及び新聞記事の内容から、低学年が身近な生活から選んでいる。学級での帰りの会及び一斉下校前の全校集会で「フリートーク」を行っている。全児童が担当者となり、話題についての感想交流を行っている。教師は、話題や児童の発表についての思いを語り、話題を膨らませたり、さらなる関心を引き出したりする。この取組によって、感想をまとめる力、発表する力が確実に身に付いており、双方向のコミュニケーション能力も育っている。

- ・「児童集会」

児童の自発的・自治的な実践活動を通して、児童一人一人の学校生活をより豊かに楽しくしたいという願いを具現化することを目的とし、「朝の時間」を利用してランチルームで行っている。司会・運営は運営委員会の児童が行い、流れは「①今月の歌 ②はじめの言葉 ③委員会や学級からの発表 ④月目標の反省（学級代表1名が学級全体の取組の反省を発表する）⑤終わりの言葉」を基本としている。

各委員会及び学級の年間を通した割り振りは以下のとおりである。

4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全委員会	図書・環境 委員会	保健・給食 委員会	1・2年生	運営 委員会	体育 委員会	図書・環境 委員会	5・6年生	運営 委員会	体育 委員会	3・4年生

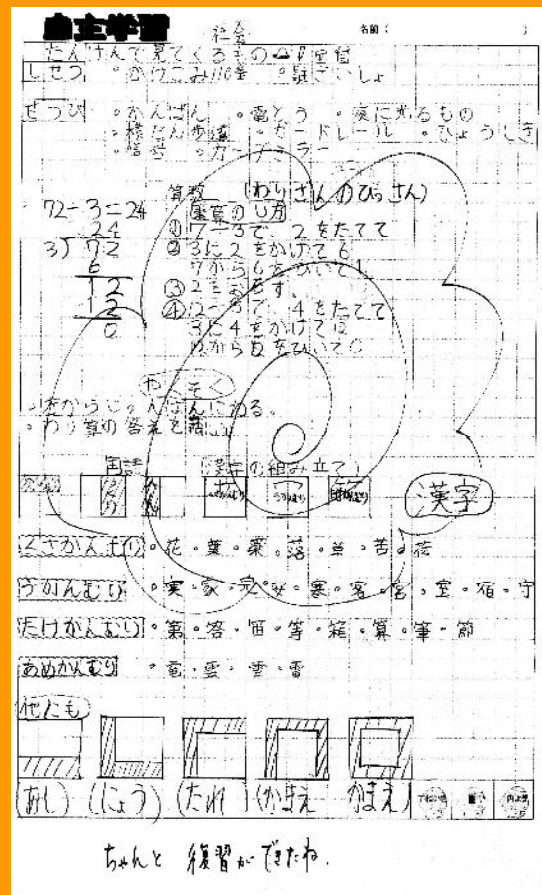
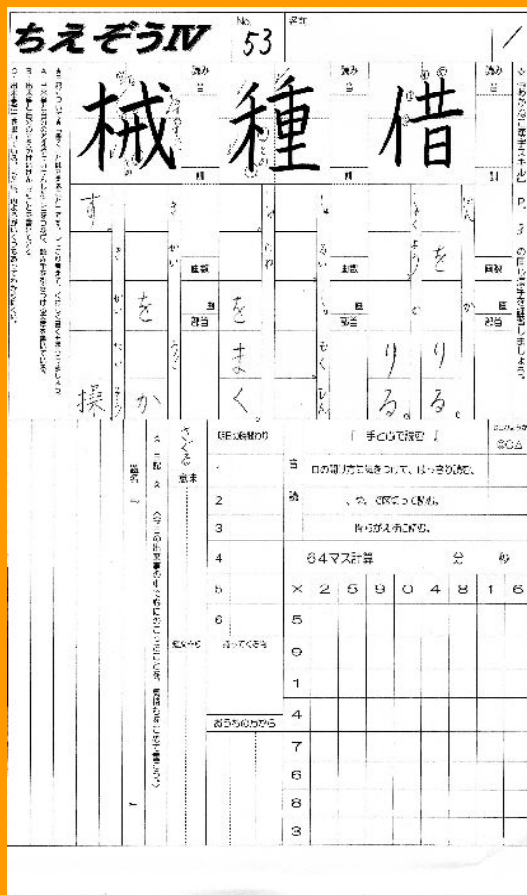
### (3)主体的な家庭学習の定着に向けた取組

本校オリジナル家庭学習問題「ちえぞう」を作成し全学年で取り組むことで合理的かつ主体的な家庭学習の定着を図る。教科は、国語と算数を中心にして、社会・理科でも作成している。

- ・すべて担任によるオリジナル問題であり、児童の取組に対して担任は必ず丁寧な「返し」をする。
- ・1年から6年まで発達段階に応じた内容で、表面が基礎的・基本的事項（漢字練習・マス計算・音読・意味調べ・日記等）裏面がマス目だけの「自主学习」を基本に活用力の育成を目指す。
- ・昨年度は1年間で136号実施した。

「ちえぞう」の表面

裏面



#### (4) 基礎的な体力の向上と「がんばる心」を育成する取組

- 「北海道まで走っていこう」をスローガンに「朝のランニング」に全校で取り組む。
- ・ 時間：登校後、教室で荷物の整理や係の仕事などを終えた児童が運動場に出て自分のペースで走り出す（8時から8時20分の間）。
  - ・ 距離：運動場（120m）低学年7周以上、中学年10周以上、高学年15周以上。  
走るのが好きな児童は、自主的に20周から30周毎朝走っている。
  - ・ タイムトライアル：2週間毎に全校児童一斉に12周のタイムを計っている。

#### (5) 「開かれた学校」の実現への取組

- ・ 校長便り「泉二小」を発行し、泉二小のよさ、児童の頑張り・教職員の頑張り、保護者の協力体制などを家庭・地域に知らせる。（平成19年度は46号発行）
- ・ 学校ホームページをこまめに更新し充実したものにして、保護者・地域に泉二小の情報を提供する。昨年度と本年度の2年連続で「J-KIDS 大賞熊本県優秀賞」を受賞した。

## 2 成果と課題および今後の取組の方向

### (1) NRT 標準学力検査(H20.4月実施)の結果より

偏差値平均〔総合・国語・算数は、2～6年生、社会・理科は5,6年生〕

	総合	国語	算数	社会	理科
平成20年度	59.2 ↑	59.2 ↑	58.2 ↑	55.1 ↑	59.4 ↑
平成19年度	53.2	54.5	51.6	47.5	51.3

↑ 昨年より  
上回っている

- ・ 82.4%の児童が段階4(到達状況良好)、17.6%の児童が段階3(普通)であり、段階2及び1はいない。
- ・ 昨年度の値と比べると、全教科において全学年とも大きな伸びである。
- ・ 学力成就値は、段階5(促進)及び段階4(やや促進)にほとんどの児童が位置している。

## (2) 県学力調査(ゆうチャレンジ) (H20. 1月実施)の結果より

- ・ 国語では、「関心・意欲・態度」は県平均を大きく上回っているが、「書く」「読む」が下回っている。
- ・ 社会では、全体として上回っているが、「思考・判断」が下回っている。
- ・ 算数では、「表現・処理」は大きく上回っているが、「関心・意欲・態度」が下回っている。
- ・ 理科では、どの学年も全領域・全観点において大きく上回っている。
- ・ 17観点中、12観点において県平均を上回っている。

## (3) 「新体力テスト」の結果より

全校児童の判定評価

	A	B	C	D	E
平成20年度 (全児童21人)	8人 (38%)	5人 (24%)	6人 (28%)	1人 (4.8%)	1人 (4.8%)
平成19年度 (全児童24人)	2人 (8.3%)	7人 (29%)	10人 (42%)	3人 (13%)	2人 (8.3%)

- ・ 62%の児童がA段階及びB段階である。
- ・ 昨年度に比べて、大きな伸びである。
- ・ 特に「シャトルラン」は県基準値を大きく上回っている。
- ・ 「握力」「ソフトボール投げ」は、県基準値を下回っている児童がいる。